

アジア人財資金構想・金沢大学コンソーシアムにおける 短期集中型ビジネス日本語教育とその評価・課題

太田 亨・今井 武・島 弘子¹

要 旨

本稿では、アジア人財資金構想・高度専門留學生育成事業における金沢大学コンソーシアム（金大コンソ）の日本語教育，特にビジネス日本語（BJ）教育について紹介し，そのカリキュラムにより学生のBJ力が伸長したことを確認する。金大コンソ方式の特徴は，長期休暇期間中を利用した「短期集中型」教育を採用している点で，ビジネス・ティーチング・アシスタント（BTA）制度の導入により，プロジェクト・ベースト・ラーニング（PBL）に基づくBJ教育が円滑に行えるよう工夫している。今後の最も大きな課題としては，海外から予備教育を経て入学する学生の日本語力を着実に上げ，BJ教材集の内容を大幅にカスタマイズして，BJ教育が支障なく実施できる仕組みを構築することである。

キーワード：アジア人財資金構想，高度専門留學生育成事業，短期集中型ビジネス日本語教育，プロジェクト・ベースト・ラーニング（PBL），ビジネス・ティーチング・アシスタント（BTA）

1. はじめに

アジア人財資金構想・高度専門留學生育成事業（高度専門事業）は，平成19年度から経済産業省主導により開始したプロジェクトで，アジアからの優秀な外国人を母国と日本の「ブリッジ人材^{（文献2）}」として育成し，日本企業に就職させることが期待されている。平成21（2009）年度現在，金沢大学を含む全国23コンソーシアムで同事業が実施されている^{（文献4）}。

金沢大学コンソーシアム（金大コンソ）における高度専門事業は，管理法人を（財）石

1 太田（金沢大学留學生センター），今井（石川県国際交流協会），島（石川県産業創出支援機構）

川県産業創出支援機構 (ISICO) とし、大学院自然科学研究科博士前期課程に「高度専門 (技術・ビジネス) 留学生特別コース (特別コース)」を新設して開始した^(文獻7)。受講学生に自然科学各分野の専門性をつけつつ、総合日本語, 日本文化, ビジネス日本語 (BJ) 教育と2種のインターンシップを含む企業実践教育, 就職支援事業を充実させた特別カリキュラムを組み, 教育を行っている (図1)。

本報告では, 特別コースのカリキュラム中, 特に金大コンソ方式のBJ教育カリキュラムが, 受講学生のBJ力の上昇に一定程度寄与したことを確認する。

アジア人財育成教育カリキュラム

金沢大学における教育		産学連携による教育	
<p>専門教育 専門選別科目 (10単位以上選択必修)</p> <p>機械・メカトロ系 ■国際協働科学専攻 ■人間知・機械科学専攻</p> <p>IT・電子系 ■電子情報工学専攻</p> <p>創薬・分析系 ■生命工学専攻</p> <p>物質工学系 ■物質工学専攻</p> <p>社会基盤系 ■社会基盤工学専攻</p> <p>地球環境系 ■地球環境学専攻</p> <p>課題研究 (卒業必修) 修士論文の作成</p>	<p>日本語・日本ビジネス教育 (必修を含む1日 単位以上選択必修)</p> <p>総合日本語 ★2科目4単位必修</p> <p>ビジネス日本語 ★2科目4単位必修</p> <p>日本文化 (いしかわ産大等) ★1科目2単位必修</p>	<p>ビジネス基礎論 ★1科目2単位必修</p> <p>MOT(技術経営)教育 ★2科目4単位必修 ※産マネジメント必修 コミュニケーション基礎 知識ビジネス編</p> <p>企業ビジネス研修 ★1科目2単位必修 インターンシップ (ビジネス系)</p>	<p>企業実践教育 (6単位必修)</p> <p>地域企業概論 ★1科目2単位必修 企業の特徴と個性をみる技術 の理解</p> <p>地域企業研究 ★1科目2単位必修 インターンシップ専攻教育</p> <p>企業技術研修 ★1科目2単位必修 インターンシップ (技術系)</p>

図1 特別コースのカリキュラム

2. 金大コンソ・短期集中型 BJ 教育実施概要

はじめに, 金大コンソにおけるBJ教育の実施概要について述べる。金大コンソにおけるBJ教育の一大特徴は「短期集中型」という点であり, 1年次の夏期休暇中5週間100時間と翌春期休暇中7週間140時間実施している。

短期集中型BJ教育を運営するに当たっての骨子をなすのは次の4点である。①(財)石川県国際交流協会日本語・日本文化研修センター (IJSC) と共同運営である点, ②アジア人財資金構想・共通カリキュラムマネジメントセンターである, (財)海外技術者研修協会 (AOTS) 配信の教材集を金大コンソの実情に合わせ大胆にカスタマイズした点, ③ビジネス・ティーチング・アシスタント (BTA) 制度により, 日本語教師が容易に扱えない分野でコラボレーション授業を実施した点, ④「総合日本語コース (総合日本語)」等の科目と教育内容の補完を行っている点である。

①については, 金大コンソが, ISICO という石川県関連の財団法人が金沢大学と連携して設立されたコンソーシアムであることによる。BJ教育を金沢大学単独で新たに立ち上げるのではなく, (財)石川県国際交流協会と連携することにより, BJ教育を通じた県と大学との連携を強化する道を選択したのである。その役割分担は, 大学側でカ

リキュラムやシラバスなどのコースデザイン全般を担当し、BJ教育の実施そのものをIJSC側に委託するという形を採用した。

次に②についてであるが、AOTSから配信されている教材集はプロジェクト・ベース・ラーニング（PBL）に基づき、A～Dの4フェーズに15テーマが配置されている（文献8）（図2）。

フェーズ	テーマタイトル
A 就職活動を知る ～就職に向けて～	<input type="radio"/> 1. 就活へ！はじめの一歩
	<input type="radio"/> 2. 業界・企業研究入門
	<input type="radio"/> 3. つかめ！面接のコツ
B 日本と自国の違いを知る	<input type="radio"/> 4. キャリアプラン プロジェクト
	<input type="radio"/> 5. インターンシップ プロジェクト
	<input type="radio"/> 6. 知的財産権プロジェクト
	<input type="radio"/> 7. 仕事と家族プロジェクト
C 企業・会社を知る	<input type="radio"/> 8. 自立支援による地域復興の試み
	<input type="radio"/> 9. 男女共同参画の推進
	<input type="radio"/> 10. 地域おこしエコイベント、エコツアーの企画
	<input type="radio"/> 11. 東アジアの進出企業の海外戦略
D 仕事を知る ～企業活動シミュレーション～	<input type="radio"/> 12. 自国を売り込むツアー企画プロジェクト（旅行観光業）
	<input type="radio"/> 13. 団塊世代向け商品企画プロジェクト（貿易業）
	<input type="radio"/> 14. 環境に優しい製品の開発プロジェクト（製造業）
	<input type="radio"/> 15. コンビニ新規店舗企画プロジェクト（流通業）

（2009年1月現在）

図2 AOTS 配信教材集

1テーマにつき1.5時間×15コマ＝22.5時間をかけて教育を行い、コンソーシアムの実情に応じて合計270時間程度のプログラムになるようカスタマイズすることが推奨されている。金大コンソでは、上述のとおり計240時間で実施できるよう、図2中の○印が付いた11テーマを選び、内容の取捨選択も含めたカスタマイズを行った^{注2}。

③については、カスタマイズした教材集の内容にビジネス・経済・就活に関する専門的事項があまりにも多く、従来の日本語教育の範囲を大きく超えているという判断の下に導入した制度である（文献6）。例えば、2008年2～3月にかけて実施した第1回春期BJ教育においては、「就活」や「企業における男女共同参画の現状」などのテーマが盛り込まれていたため、就活ナビ会社課長の方や、大手電気部品メーカー専務の方にBTAとして日本語教師と共に教室に入ってもらい、現状を紹介してもらうとともに

2 AOTS 配信教材集のC-10で扱われる「愛・地球博」を「金沢大学角間キャンパス」に置き換え、大学の活性化プロジェクトに内容変更したほか、2008年度後半から2009年度前半にかけて、金大コンソの就職カウンセラーを兼任するBTAの助言に基づいてA-2の内容を大幅に変更し、「金沢大学（試作）版」を作成したこと、などが挙げられる。

得点レンジは6段階に分かれており、高いほうから順に「J1+」(800~600), 「J1」(600~530), 「J2」(530~420), 「J3」(420~320), 「J4」(320~200), 「J5」(200~0) となっている。

S1~S3は上級レベルから始まったため、S1を除けばBJT得点レンジに変化はなく、総合日本語も同じレベルで推移している。一方、S4~S7は総合日本語のレベルが確実に1つ上へと上がり、S7はBJT得点レンジも1段階上昇していることが分かる(表1)。

表1 特別コース学生の日本語力に関するデータ

期	学生	BJT 初期値	総合 日本語①	BJT 中間値	総合 日本語②
1期生	S 1	J 2	F 超	J 1	F 超
	S 2	J 2	F	J 2	F
	S 3	J 2	F	J 2	F
	S 4	J 3	C 2	J 3	D
	S 5	J 3	D	J 3	E
	S 6	J 3	D	J 3	E
	S 7	J 3	C 2	J 2	D
2期生	S 8	J 2	F		
	S 9	J 3	C 2		

4. 短期集中型 BJ 教育の評価

短期集中型 BJ 教育後の「評価」は大きく分けて2つ実施した。まず、事業参加コンソーシアムに実施がほぼ義務付けられている、上記のBJTである。

これまでにBJTを受験したのは、初年度に入学した1期生7名(全て中国人)と、2年目の4月に予備教育なしで入学した国内採用の2名(中国人と韓国人)である。前者7名は、初期値、中間値1と2、最終値が³、後者2名は初期値と中間値のみが出ている(表2)。

3 BJTとは、2009年3月まで(独)日本貿易振興機構(JETRO)が18回にわたって実施してきた「BJTビジネス日本語能力テスト」をアジア人財資金構想用に簡易化したものことである。2009年4月から「BJTビジネス日本語能力テスト」が⁴財団法人日本漢字能力検定協会に移管されたことにより、高度専門事業におけるBJTも同協会による「BJT個別テスト」として実施されることになった。

表2 特別コース学生のBJT 得点に関するデータ

	平均値	標準偏差	標準誤差	最小値	最大値	中央値	欠損数
初期値	417.56	66.46	22.15	342	505	383	0
中間値1	434.11	68.34	22.88	345	579	407	0
中間値2	435.86	70.43	26.62	378	575	444	2
最終値	474.29	75.52	28.54	394	612	441	2

これらの値を用いてt検定を行ったところ、初期値と最終値の間では5%水準で有意に上昇しており (p=0.046)、中間値1と最終値の間では有意な上昇傾向が見られる (p=0.059) ことが分かった。特に、初期値と最終値の間は7例中5例が、「[最終値]=92.895+0.915×[初期値], R²=0.796」で表される回帰直線上にほぼきれいにプロットされていた。

この結果から、学生のBJ力はそれぞれの初期値に応じて着実に伸長していると言え、次の図4のように、初期値から最終値までの10ヶ月強の間に行われた特別コースの教育カリキュラムのうち、BJ教育、総合日本語、インターンシップ等がBJ力の伸びに一定程度寄与したと推定できる。

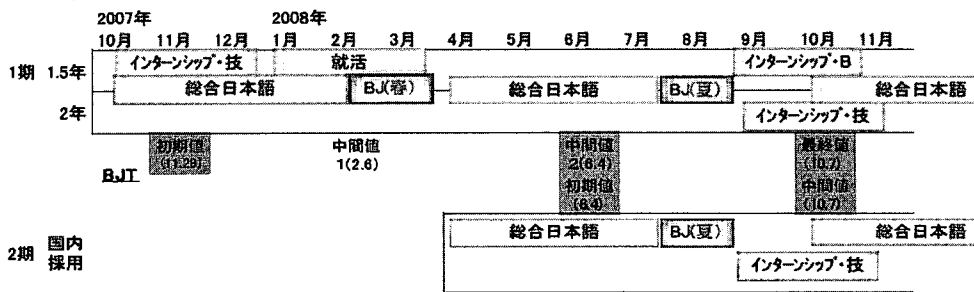


図4 BJT間の特別コース・スケジュール

次に、学生に対する事後アンケート (図5) では、AOTS から提供された20問の原案に短期集中型 BJ 教育を行う金大コンソ側で10問を追加し、計30問の設問を学生に実施した。

アジア人財 ビジネス日本語プログラムに関するアンケート集計表(1期&2期)9名

実施日: 2008.8.29

	5段階評価					平均					春B.J 平均			
	5	4	3	2	1	5	4	3	2	1				
	上級クラス					中級クラス					春B.J			
	学1	学2	学3	学4	学5	学1	学2	学3	学4	学5	9人全体 平均	1期7 人平均	2期2 人平均	春B.J 平均
1.														
1	5	5	5	4		4	5	5	3	4	4.44	4.57	4.00	4.00
2	5	4	3	2		3	4	5	5	3	3.78	4.14	2.50	4.29
3	5	5	4	4		5	5	4	4	4	4.44	4.57	4.00	4.57
4	4	5	4	4		4	4	4	5	4	4.22	4.29	4.00	4.57
5	4	2	3	1		3	4	3	3	2	2.78	3.14	3.50	3.00
6	5	5	3	4		5	5	5	5	5	4.67	4.71	4.50	4.86
7	5	5	5	4		5	5	5	5	5	4.89	5.00	4.50	4.71
8	5	5	5	5		4	5	5	5	5	4.89	4.86	5.00	4.86
9	6	5	5	3		4	5	5	4	4	4.56	4.86	3.50	4.71
10	4	4	3	5		4	5	5	4	3	4.11	4.14	4.00	4.43
11	5	4	4	4		4	5	4	4	2	4.00	4.29	3.00	4.57
12	5	4	3	4		5	5	4	4	4	4.22	4.29	4.00	4.14
13	5	3	3	4		4	4	4	3	2	3.58	3.71	3.00	4.17
14	4	4	3	4		4	4	4	3	3	3.78	3.86	3.50	4.00
15	5	4	4	4		4	5	5	4	4	4.33	4.43	4.00	4.14
16	4	5	4	4		5	5	5	4	5	4.56	4.57	4.50	4.86
17	4	3	5	4		5	5	5	3	5	4.33	4.29	4.50	4.86
18	4	4	4	4		5	4	5	3	2	3.89	4.14	3.00	4.14
19	4	4	4	4		4	4	4	3	4	3.89	3.86	4.00	4.43
20	5	3	5	4		5	5	4	3	4	4.22	4.29	4.00	4.71
	上級					中級					クラス			
	学1	学2	学3	学4	学5	学1	学2	学3	学4	学5	9人全体 平均	1期7 人平均	2期2 人平均	春B.J 平均
21	5	5	4	4		4	5	4	4	4	4.33	4.43	4.00	4.29
22	5	5	5	4		4	5	5	5	4	4.67	4.86	4.00	5.00
23	5	4	5	4		5	5	4	5	5	4.87	4.71	4.50	4.86
24	5	5	5	4		5	5	4	5	5	4.78	4.86	4.50	4.71
	<small>(元大手電機メーカー勤務IT技術者、同僚指導、コンビニ企業指導、コンビニオーナーによる話など)</small>													
25	5	5	5	4		4	5	4	5	4	4.56	4.71	4.00	4.57
26	5	4	5	3		5	5	6	4	4	4.44	4.29	3.50	4.57
27	4	3	5	3		5	5	4	4	4	4.11	4.29	3.50	4.14
28	3	3	2	3		4	5	4	3	2	3.25	3.50	2.50	4.14
29	5	5	4	4		5	4	5	4	4	4.44	4.57	4.00	4.57
30	5	4	4	4		5	5	5	4	4	4.44	4.57	4.00	4.57
	<small>(具体的に振り返りながら、予定、宿題・課題への取り組み等)</small>													
											合計			
											4.24	4.37	3.78	4.45

図5 短期集中型 BJ 教育後アンケート及び結果

アンケートは5段階評価で回答するようになっているが、金大コンソのBJ教育を特徴づける「短期集中型」について、「コース全体のスケジュールの適切さ」(問4)の結果は、2008年春期BJ教育において5点満点で4.57点、同年夏BJ教育で4.22点と、一定の支持を受けたとみることができる。このほかにも、春夏とも平均評定が4点以上の項目は、30問中23問に及び、金大コンソ短期集中型BJ教育は受講学生から概ね高い評価を得たと言ってよいだろう。

その一方で、「実施場所」(問5)は平均評点に2点未満がつけられた項目であるが、IJSCの場所が金沢駅近くなのに対し、学生の居住地が大学周辺であり、通学に不便だったことが大きな原因である。今後も大学とIJSCとの共同運営でBJ教育を継続していく以上、これは大きな課題の一つと言えるだろう。

また、春夏どちらか一方の評点で3点台がついた5項目のうち、「教材内容」(問13)と「教材分量」(問14)については、事業2年目以降、海外から予備教育を経て受入れ

る学生にタイやベトナムといった、いわゆる非漢字圏からの学生が多く含まれてくるため、見過ごせない問題である。

5. 短期集中型 BJ 教育の今後の課題

2008年末までに2回実施したBJ教育⁴の運営過程では、図5のアンケート結果で見たほかにも様々な問題点が明るみにでた。①短期集中型BJ教育における学生への課題の与え方、②BTAとのより入念な打ち合わせと事後のフィードバックの必要性、③IISCとの共同運営の継続方法、などである。これらは今後とも金大コンソ短期集中型BJ教育を継続して運営していく上での重要な課題と考える。

しかしそれ以上に、前章末でも触れたように、海外から直接呼び寄せ、半年間の予備教育を経て受け入れる学生に対して、どのように日本語力のボトムアップを行うか、その方策を検討し実行に移すことが喫緊の課題である。なぜなら、学生は特別コースに合格が決定してから来日するまで約半年強の時間があるのだが、その期間中、金大コンソ側では直接対面型の教育・指導が行えないからである⁵。

また、日本語学習をゼロから始める学生が存在することに伴い、BJ教育のための教材集の内容と量を大胆に引き下げようカスタマイズ作業もあわせて行う必要がある。図2で挙げたAOTS配信教材は、指導する日本語教師にとって「従来の日本語教育の枠を超えた内容だった」と第2章中で述べたが、同じことは教育を受ける学生の立場にとっても言える。本来は、BTAが直接日本語で話すBJの専門的内容に対して、十分ついていける日本語力が要求されるにも拘らず、わずか1年足らずで初級から急速に伸ばしてきた日本語力でBJ教育に取り組もうというのである。教材集をAOTSから配信されたままの形で使用するには無理があり、ルビ振りはもちろんのこと、語彙

4 BJ教育は本稿執筆時点で、2009年3月に第2回目の春期が終了し、同年8月に第2回目の夏期の教育が行われている最中である。前者は表1のS8とS9の2名のみが受講だったため、BJ教育の評価に有効なデータが回収できず、後者は実施中ということでデータが出ていない。

5 来日までの半年間、金大コンソ側で合格決定した学生に対して何もしないということの意味するものではない。学生の合格が決まるのは例年2月中旬なので、学生の出身国である中国・韓国・タイ・ベトナム・インドネシアで入手しやすい、『みんなの日本語』を日本語初級教科書として指定し、彼らが来日する9月下旬までの間に、漢字も含めた初級の学習方法を英文で記した文書を送付している。その後、4月中旬以降からビデオ会議による学習コンサルティングも併せて行い、日本語学習の進捗チェックを半年間で2～3回行うようにしている。さらに2009年度は、我々があまり情報を持ち合わせないタイ・ベトナム・インドネシアにおける日本語教育・日本語学校の現地調査を行い、学生たちに向けて「あなたが住む町なら、xの場所にあるy日本語学校のzクラスを受けなさい。」といった形で具体的なアドバイスができるよう、情報収集を行う予定である。

をより簡単なものに置き換えたりするなど、大幅なカスタマイズを伴った措置が避けて通れないだろう。

いずれの問題に対しても、2009年度以降、具体的な行動を伴った形で迅速に取り組まなければならないと、我々は認識している。

参考文献

- 1) 太田亨:「総合日本語コース」の創設と今後の展望, 金沢大学留学生センター紀要, No.3, pp.141-150(2000)
- 2) 海外技術者研修協会:「構造変化に対応した雇用システムに関する調査研究～日本企業における外国人留学生の就業促進に関する調査研究」報告書(2006)
- 3) 金沢大学留学生センター:金沢大学留学生センター年報, No.2(2007)
- 4) 経済産業省経済産業政策局産業人材担当参事官室:「グローバル人材マネジメント研究会」報告書(2007)
- 5) 野元千寿子:留学生に対するビジネス日本語教育－APUにおける教育実践とアンケート実施より－, 昭和女子大学大学院日本文学紀要, No.15, pp.31-43(2003)
- 6) 堀井恵子:留学生に対するビジネス日本語教育の現状と課題－産学連携の実現に向けて－, 武蔵野大学文学部紀要, No.8, pp.1-14(2007)
- 7) 山崎光悦・中山謙二・田村和弘・太田亨:経済産業省・文部科学省委託事業 アジア人財資金構想 高度専門留学生育成プロジェクト 北陸地区産学官連携リソースを活用した理工薬系留学生の育成, 北陸信越工学教育協会会報, No.57, pp.26-29(2009)
- 8) 山本富美子・糸川優・渋谷倫子・副島健治・戸坂弥寿美・星野智子:企業が期待する外国人「人財」の能力とビジネス日本語, 専門日本語教育研究, No.10, pp.47-52(2008)

Short-term Intensive Business Japanese Language Education by the Kanazawa University Consortium in the Framework of the Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan: its Evaluation and Problems

Akira OTA, Takeshi IMAI, Hiroko SHIMA

ABSTRACT

This paper presents the Japanese language education, especially "Business Japanese"(BJ), carried out by the Kanazawa University Consortium in the framework of the *Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan*, and supported by the Japanese government. Also, we confirm that our BJ curriculum has contributed to raising the BJ proficiency level of our students.

We have adopted a short-term intensive BJ program during the summer and the second spring's long vacation periods, and realized a method of BJ teaching based on project learning (PBL) and employing business teaching assistants (BTA).

One of our problems for the near future is how to improve the Japanese proficiency level of our candidate-students steadily before and during the preliminary period, and how to customize the BJ materials, so as to implement our BJ education program smoothly after they enter the course.

keywords: *Career Development Program for Foreign Students in Japan, Advanced Education Program for Career Development of Foreign Students in Japan, Short-term Intensive Business Japanese Education, Project-based Learning (PBL), Business Teaching Assistant (BTA)*